

**質問** 近年、大規模地震や大規模水害など、想定を超える自然災害が頻発化しているが、新型コロナウイルス感染症の影響が広がっている現状を踏まえ、避難所運営には感染症対策に万全を期すことが重要である。そこで、

次の4点について伺う。  
**問①** 避難所として開設可能な公共施設の活用について。  
**町長** コミュニティセンターなどの施設を、指定緊急避難場所として活用したい。  
**問②** 「分散避難」の定着について。  
**町長** 国や都などからも、親戚、知人宅、民間宿泊施設などへの分散避難の検討が呼び掛けられている。町も引き続き広報し、定着を図っていく。  
**問③** 感染症対策に配慮した避難所運営のあり方について。  
**町長** 感染症の発生予防、重症化を防ぐ、感染者との分離の三点が重要である。これらを実現するために運営に必要な資材の準備と、訓練を通じて職員に知識を習得させる。

小川 龍美 議員(公明党)

コロナ禍における避難所運営のあり方について問う



**町長** 感染症の発生予防、重症化を防ぐ、感染者との分離の三点が重要



7月に行われた避難所開設訓練(職員訓練)での避難所用間仕切りシステムの組み立ての様子(長岡コミュニティセンター)

**問④** 発熱、咳等の症状が出た避難者の対応について。  
**町長** 適切な避難場所の区分、検査や必要な医療を受けられるよう、移送が円滑に実施できる体制を整える。



大坪 国広 議員(日本共産党)

どうなる、誰でも乗れる町民バスは



**町長** 通勤通学に対応可能な運行を考えたい

**質問** 町では、年々一人暮らしや高齢者世帯が多くなり、運転免許証返納者が増えている。また、誰でも乗れる町民バスを走らせて欲しいとの声が多く、町民から寄せられ、見直しを求めている。そこで、次の3点について町長の所見を伺う。  
**問①** 「地域公共交通会議」や3力所での町民との意見交換会の内容は。  
**町長** 3回の意見交換会では、福生病院への直通運行を希望する声や、また、特に元狭山地区では箱根ヶ崎駅までの通勤通学を希望する声が多くあった。

**問②** 現在、利用している障がい者や高齢者は不利益にならないか。できる時間帯の運行やIC導入を目指して計画を作っていく。  
**町長** コミュニティバスにしたい場合、受益者負担をお願いすることになる。その際には、高齢者や障がいのある方について、料金の減額制度や他の方法など検討したいと考えている。  
**問③** 町は、福祉バスに替わる施策をどのように考えているか。  
**町長** 通勤通学に対応

**こんな質問もありました**  
**今こそ、少人数学級実現への取り組みを**  
**教育長** 国は7月の教育再生実行会議で少人数学級について議論している。今後の動向を注視したい。



7月に庁舎で行われた地域公共交通意見交換会



森 巨 議員(自民新公会)

町の経済対策と各種計画への展開は



**町長** 第5次長期総合計画に感染症拡大防止を位置付ける

**質問** 今回の新型コロナウイルス感染症拡大は、町の地域経済に大きな打撃を与え、町内事業者から財政支援が求められている状況にある。また、町の行財政運営の各種計画自体も見直しが必要なくされるものと推察する。そこで次の3点について町長の所見を伺う。  
**問①** 町の経済対策についての方針は。  
**町長** 商工会や企業から意見や要望を聞き取り、できる限りの支援をしていきたい。

**問②** 既存および現在策定中の各課の事業計画への展開は。  
**町長** 町の最上位計画である第5次長期総合計画を策定中である。感染症拡大防止を位置

**こんな質問もありました**  
**新たな社会環境における学校教育について**  
**教育長** コロナ禍であっても、集団生活を通じて身に付けさせる自主性や社会性を育む教育に努力していく。

**問③** 今後の行財政運営の基本方針は。  
**町長** 来年度の税収は確実に減少し、財政状況は逼迫すると考え、町民の命を守ることを最優先に、積極性を失うことなくまちづくりを進めていく。

元年12月に行われた「瑞穂町の未来を話そう!」懇談会(長岡コミュニティセンター)



元年12月に行われた「瑞穂町の未来を話そう!」懇談会(長岡コミュニティセンター)

近藤 浩 議員(改革みずほの会)

学校給食費の無償化を



**教育長** 現時点で実現する考えはない

**質問** コロナ禍で生活が厳しい家庭も増えていくと推察される。学校給食費の無償化は保護者負担の軽減を行うことで、若い世代の定住化にも有効であると思う。  
**町長** 3回の意見交換会では、福生病院への直通運行を希望する声や、また、特に元狭山地区では箱根ヶ崎駅までの通勤通学を希望する声が多くあった。

**問②** 現在、利用している障がい者や高齢者は不利益にならないか。できる時間帯の運行やIC導入を目指して計画を作っていく。  
**町長** コミュニティバスにしたい場合、受益者負担をお願いすることになる。その際には、高齢者や障がいのある方について、料金の減額制度や他の方法など検討したいと考えている。  
**問③** 町は、福祉バスに替わる施策をどのように考えているか。  
**町長** 通勤通学に対応

**こんな質問もありました**  
**家庭教育の取り組みについて**  
**教育長** 新たな機器を使った学力向上策を含めて、家庭教育の支援を行っていく。

**質問** コロナ禍で生活が厳しい家庭も増えていくと推察される。学校給食費の無償化は保護者負担の軽減を行うことで、若い世代の定住化にも有効であると思う。  
**町長** 3回の意見交換会では、福生病院への直通運行を希望する声や、また、特に元狭山地区では箱根ヶ崎駅までの通勤通学を希望する声が多くあった。

**こんな質問もありました**  
**家庭教育の取り組みについて**  
**教育長** 新たな機器を使った学力向上策を含めて、家庭教育の支援を行っていく。



給食搬入の様子(三小)